

Frente

vol.23

フレンテ フレンテとはスペイン語で「前向き」という意味です。

2005.12



村本邦子さんの巻頭エッセイ
子育て支援は誰のため？

チャレンジ

ハリウッドで活躍する映画編集者

市町村からこんには
〜松阪市〜

ひとくち情報

女子差別撤廃条約最終回

フレンテみえレポート

ひと
男女共同参画フォーラム～みえの男女2005～

フレンテみえで平成16年度男女共同参画フォーラム～みえの男女(ひと)2004～で子育て支援の分科会講師を務めていただいた村本先生。子育て支援の現状問題について、エッセイ第1回です。

子育て支援は誰のため？

子育て真っ最中の男性の話を聞いてショックを受けたという麗花さん、21歳。自分の父親は、とにかく忙しくて家にいなかったから、存在自体が無なのだそう。父親とは何かと問われれば、答えようがない、頭の中にクエスションマークが飛ぶばかりと言う。長女として、子育てに苦労してきた母親の姿を見てきて、子育てに協力してこなかった父親に怒りさえ覚えている。しかし、よくよく聞いてみると、4人の子どもを抱え、それぞれに高い教育費がかかっている麗花さんのお父さんの働きぶりには頭が下がる。一家を支えるため、身を粉にして働いてきたのだろう。

夫婦にまつわる相談を聞くなかで、哀しい男女のすれ違いに胸が痛む。最初の子どもが生まれた時、男性は、「これで自分も父親だ。一生懸命働いて、家族のために頑張らなければ」と考え、以前にも増して仕事に励む。他方、女性の方は、産後の体で慣れない子育てに明け暮れ、夫がなかなか帰って来てくれないこと、ようやく帰ってきたと思っても、疲れ果てて、手伝いどころか、愚痴を聞いてくれさえしないと不満を溜め込む。

子どもを持ち、親となって、男女それぞれが、自分の役割を果たすために頑張ろうと思うことと、相手に役割を果たしてもらうために頑張りたいと思うこととは、どうも、大きなズレがあるようだ。そして、互いに不満ばかりが膨らんでくる。ありがたいのは、女性の方が心を閉ざし、結果的に、男性は家庭に居場所を失い、子どもとの絆が結べない。互いに好きで一緒になり、家庭を大切にしたい思いは同じだったはずなのに、なかなかその思いが子どもに届かない。これは、とくに、男性にとって不幸なことではないか。

初めて子どもを授かった時、夫と役割分担について話し合った。私のなかには、十年ほど子育てに専念するのも良いかもしれないという気持ちがあったが、夫が、「完全な役割分担をしてしまえば、それぞれの苦労は見えなくなるだろう。外で働くにも、家で働くにも、それぞれに違ったしんどさがあるだろうから、少しずつでも共有する方が良いのではないか」と言った。実際には、これは、「言うは易く、行ふは難し」であったが、それでも、名言であると、今なお思う。

こうして、分担のウエイトは違えど、子育ての役割分担をしてきたが、子どもたちが思春期に入った今、ウエイトが少しずつ逆転しつつある。前半は、おもに夫が経済的な責任を負ってくれていたが、夫はずいぶん年上で、まもなく定年が近づくので、そこから先は、子どもの教育費の責任を私が担わなければならない。多忙に働きながら、世の男性の苦労が身に沁みる今日この頃。出張や深夜帰りが続くと、家族サービスをしなければと焦る一方、しんどいのは、家族というより、本当は自分自身であることを痛感する。家族とともに家で過ごす時間は貴重である。そして、せつせと家事をする。

経済的責任、家事・育児の責任は少しずつでも分担する方が良い。したくない苦労は、想像しようもない。そして、想像力を駆使して、たがいに労うことが大事なのではないだろうか。男性を子育てに巻き込むことは、男性自身のためなのだ。

執筆者紹介



村本 邦子さん

女性ライフサイクル研究所所長、臨床心理士。カウンセリングのほか、子育てや女性の生き方、企業におけるストレスマネジメントの講師として活躍。現在は立命館大学特別契約教授、特定非営利活動法人FLC安心とつながりのコミュニティづくりネットワーク理事長も務められています。

小さな頃から映画が大好き。その夢をかなえるために渡米し、現在はハリウッドで編集者として活躍する傍らフィルムスクール開校へと、更なる前進を続けている横山さん。ゲストトークへ出演の折り、ハリウッドでの活躍についてフレンテミー会議室でお話を伺いました。



◆よこやまちさこさん
三重県津市出身。1987年渡米。UCサンタバーバラ校映画科卒業。
最近では『SAYURI』の編集活動に携わる。両親、夫、子ども2人とロサンゼルスに在住。

映画編集者(フィルムエディター) 横山智佐子さん

10/8
10/9
共催事業「第3回三重映画フェスティバル」において「成瀬巳喜男監督生誕100年記念上映会」を開催。映画「晩菊」の上映と横山智佐子さんをお招きしてゲストトークを行いました。

*映画編集者という職業に就いたきっかけは？

短大在学中アメリカへ語学留学し、映画学科の情報を得ました。いまだに日本で映画学科は少ないけれど、アメリカでは身近なものであることを知り、今度は映画学科に通うために戻ってこようと考えました。

最初はこの仕事に就けるとは思っていませんでした。留学中は時間を有効にあらゆる映画制作活動へ参加し、そのとき映画の仕事をしている夫と知り合い、今の仕事に就けるきっかけを得ることができました。

*仕事のことについて教えてください。

編集の仕事は映画1本、数ヶ月限りの単発契約で、私のようにずっと同じ編集者と組んで、次の仕事を紹介してもらえることはとて

「座っていてもは始まらない！」
夢は自分でつかみに行くもの

も運が良いことなのです。現場では常に一生懸命努力して仕事をし、働きぶりを認めてもらってきたので、その結果、運がついてきたのだと思っています。

*アメリカでの男女共同参画の現状は？

アメリカでは「男は仕事、女は家庭」という固定観念がないので、当たり前のように家事などを助け合っています。もし日本で結婚をし、仕事をしていたら同じようには働けなかつただろうと思います。

ただ、アメリカは保育所がなく、ベビーシッターを雇います。子育てへのサポート体制は日本の方があるのかもしれませんが。映画編集という仕事は撮影現場に同行し、海外で数ヶ月の出張が必須です。同業の女性のほとんどは結婚していても子どもを持つことをあきらめているような状態です。

*横山さんはどのように子育てをされているのですか？

子どもが生まれた頃に両親を説得してアメリカへ移住してもらいました。仕事の間は母に子どもをみてもらっています。海外出張も子どもと母に同行してもらっています。家族の支援を受けて子育てすることができ、夫も子どもにとって良い環境だと言ってくれています。

*これからの目標としては？

2006年9月ロサンゼルスにフィルムスクールを開校します。日本の若者たちに最前線の情報を提供できる場をつくりたいと思っています。日本映画界の発展に向け、自分の経験を活かして次世代育成に貢献し、常に現場で活躍して実践を取り入れた指導者を目指していきます。また、スクール設立という活動の拠点ができることで、私自身にとっても仕事や家庭生活にゆとりを得ることができると考えています。

*最後に一言！

私のような人物がいるということを知ってもらいたいですね。地方だから何もできないと考えるのではなく、どこでだって根気強く行動していけば夢をかなえることはできると思います。

プ子比較！
アメリカ
と日本

「女性の労働力率と出生率の国際比較」

アメリカでは女性の社会進出が進んでいますが(女性の労働力率59.5%、2003年)、合計特殊出生率の推移をみると、2000年データでは2.13となっており、1990年代から2以上を維持しています。

一方、日本は女性の労働力率が48.3%(2003年)、合計特殊出生率が1.29と、どちらも高いとは言えない位置にあります。

(参考)内閣府男女共同参画局ホームページ、「平成17年版 男女共同参画白書」より

11月
18日(金)
19日(土)

男女共同参画フォーラム ～みえの男女2005～ 開催

たくさんの方にご来場いただき
ありがとうございました!

開催概要

2005年は第1回世界女性会議開催から30年、「女子差別撤廃条約」批准、「男女雇用機会均等法」公布から20年と節目の年にあたります。また、2005年3月には「三重県男女共同参画基本計画第二次実施計画」が策定されました。それらを踏まえた内容で、「男女共同参画フォーラム～みえの男女(ひと)2005～」を11月18日、19日の2日間にわたり開催しました。1日目は、県からの情報提供や各分野に分かれての分科会、2日目午前はワークショップ、午後は行政の取組報告、映像でみる男女共同参画、シンポジウムなどを行い、様々な機関と連携し、男女共同参画について考えました。会場は男性が半数近くを占め、若い世代にも多くご参加いただきました。

1日目 全体会

2005年3月に策定された「三重県男女共同参画基本計画 第二次実施計画」について、三重県生活部男女共同参画室松岡室長から説明がありました。第二次実施計画の重点的に取り組む事項として、男女共同参画意識の普及と学習機会の充実、男女共同参画の視点で進める地域づくりの推進、地域における主体的・自立的な取組の支援、ドメスティック・バイオレンスに対する相談などについて、また、実施計画の基本施策の指標などについての話がありました。



1日目 分科会

第1分科会は、「男女がいきいきと働いている事業所」知事表彰受賞企業(6社)を迎えてシンポジウムを行い、男女共同参画の視点を取り入れることは企業の利益につながるのかをテーマに、事例を交えてお話いただきました。



生活部勤労福祉室主催

第2分科会は、女性労働者の多い農山漁村において、一人ひとりが輝ける農山漁村づくりについて、農村女性アドバイザーの方を中心に、現状、問題点についての意見交換会を行いました。



農水商工部担い手室主催

第3分科会は、企業や学校・地域で取り組まれている子育て支援の事例紹介の後、「情報を通しての支援」「企業のなかでの支援」「地域での支援」のグループに分かれて情報交換と交流を行いました。



三重県子育て情報交流センター
健康福祉部こども家庭室
教育委員会事務局生涯学習室 主催

第4分科会は、県民、県・市町村男女共同参画担当者、「フレンテみえ」職員により、市町村や地域における男女共同参画の取組への支援など、今後の三重県における男女共同参画の取組について意見交換を行いました。



生活部男女共同参画室
フレンテみえ 主催

全日程 パネル展

「三重県男女共同参画推進条例」パネルをはじめ、フレンテみえ制作による「男女共同参画のあゆみ」パネル、三重大学現場学習生制作による「私たちの将来は明るい???」パネル、生活部勤労福祉室の「仕事と家庭の両立について」のパネルなどをエントランスホール、アイデアショップなどに展示し、ご来場の皆様にご覧いただきました。

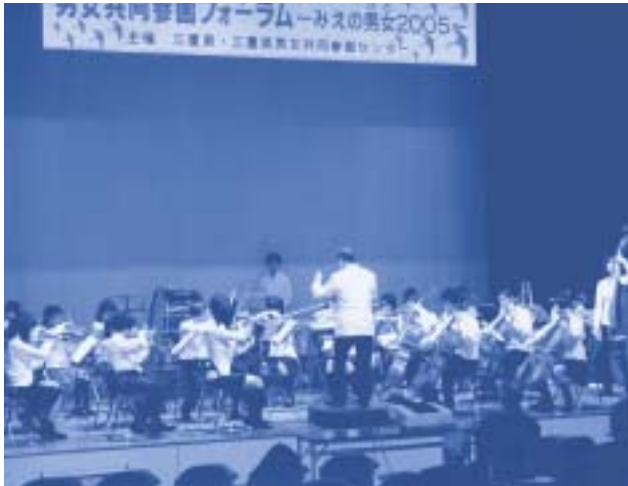
スケジュール

- ◆1日目【11月18日(金)】
 - 13:30~14:00 全体会
 - 14:15~16:15 分科会
- ◆全日程
 - 男女共同参画に関するパネル展
- ◆2日目【11月19日(土)】
 - 10:00~12:00 ワークショップ
 - 13:00~13:30 三重ジュニア管弦楽団による演奏
 - 13:30~13:40 あいさつ
 - 13:40~14:00 「男女がいきいきと働いている企業」三重県知事表彰式
 - 14:00~14:30 各分野における行政の取組報告
 - 14:30~15:00 映像でみる男女共同参画
 - 15:00~16:30 シンポジウム テーマ「男女共同参画がつくる新しい幸せのかたち」

2日目午後

三重ジュニア管弦楽団による演奏

次代を担う小学生から高校生までの団員による演奏を行いました。曲目は、「アイ・グレイ・ハート・ソング第1、第4楽章」「詩人と農夫」。フレッシュな演奏で2日目の幕を開けました。



2日目午前

ワークショップ

フレンテみえの登録団体やフレンテみえの講座受講生主催による「北欧の子育て支援事情」「時代を駆け抜

けた三重の女性たち」「CR体験ワーク~話してみよう わたしのこと~」「男の手料理食べながら本音でトーク」「『日本まんなか共和国 男女共同参画フォーラム 2005滋賀』へレッツチャレンジ!!」の5つのワークショップを開催しました。



「時代を駆け抜けた三重の女性たち」で語る佐々木かよさん(右)。

男女がともに働きやすい職場をめざし、男性も女性も各々が持てる力を十分に発揮できる職場環境づくりを進めている企業が表彰されました。株式会社イムテス、スーパーサンシ株式会社、株式会社百五銀行が受賞され、喜びの言葉とともに、今後も一層の取組が必要であるといった抱負を述べられました。



各分野における取組報告

1日目の分科会主催である生活部勤労福祉室、農水商工部担い手室、健康福祉部こども家庭室、教育委員会事務局生涯学習室、生活部男女共同参画室から、分科会報告と各分野における男女共同参画の取組の説明がありました。前日の分科会の内容を踏まえ、今後の取組の推進に向けた話がありました。

映像でみる男女共同参画

1975年以降30年にわたる男女共同参画のあゆみを振り返るために、フレンテみえ企画・運営サポーターとの協働により、イベントの写真などのほか、内閣府や三重県の調査データを用いて、オリジナルのシナリオと映像を制作し上映しました。

シンポジウム

「映像でみる男女共同参画」を受け、「男女共同参画がつくる新しい幸せのかたち」をテーマにシンポジウムを行いました。シンポジストとして、阿部正浩さん(獨協大学経済学部助教授)、山極清子さん(株式会社資生堂CSR部次長)、川口節子さん(フレンテみえ企画・運営サポーター)をお迎えしました。

「労働」をキーワードに、阿部さんからは独自のデータ分析による男女共同参画の必要性について、山極さんからは企業で実践されている取組について、川口さんからは男女共同参画の拠点施設の果たしてきた役割やその重要性などについてお話いただきました。女性だけでなく男性のかかわりが大切である、男性の意識改革の必要性、働き方に今後のカギがあるといった提言をいただき、このシンポジウムで2005年度フォーラムの幕を閉じました。



松阪市の男女共同参画推進状況は？

合併後の松阪市では、「松阪市の男女共同参画をすすめる条例」を施行し、男女共同参画室を中心に各地域振興局生活環境課とともに施策を推進しています。

現在、各地域振興局管内と本庁管内の両方から男女共同参画への意識を高めるため、男女共同参画セミナーや松阪フォーラムの開催を進めています。



男女共同参画松阪フォーラム実行委員会の様子

今後の展望

松阪市の男女共同参画施策は平成14年に旧松阪市で策定した男女共同参画プランを引き継いで進めておりますが、合併による新しい市としてのプランを見直し、市民とともに地域に根ざした形で男女共同参画社会の実現を目指します。

PR

平成18年2月18日（土）松阪市産業振興センター（松阪市本町）にて男女共同参画松阪フォーラムを開催します。

本年度は「松阪フォーラム～人・まち・夢の集い～ 輝け ひろがれ 男女共同参画のまち松阪」と題し、合併による新しい松阪市として男女共同参画について考えていきたいと思っております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

ひとくち情報 女子差別撤廃条約 第3回（最終回）

女子差別撤廃条約について全3回でお伝えするコーナーの最終回。これまで、この条約が私たちにとって身近なものであることや特色などをお伝えしてきました。今回はこの条約を取り巻く動きをご紹介します。

女子差別撤廃委員会の設置

1979年の女子差別撤廃条約採択後、女子差別撤廃条約の実施に関する進捗状況を検討するため、1982年4月の第1回選出で選ばれた23人の個人資格の専門家により構成された女子差別撤廃委員会（CEDAW）が設置されました。

レポート提出の義務

条約の締約国は、条約の実施状況について、条約を批准してから1年以内に第1次報告を、その後は少なくとも4年ごとに国連へ報告を提出することが義務づけられ、女子差別撤廃委員会でその審査をすることを決めています。日本もレポートを提出しており、最近では2002年に第5回のレポートを提出し、翌年に審議されました。これまでの指摘として、女性の政治的参加へのポジティブ・アクションの導入、私企業における賃金など男女の「間接差別」の是正などがあり、日本政府は今回のレポートで報告するように要請されています。

選択議定書

1999年10月、第54回国連総会で女子差別撤廃条約の「選択議定書」が採択されました。選択議定書とは、女性（個人や集団）が、女子差別撤廃委員会に対して、女性差別の申し立てをすることができるという個人通報制度などを定めたものです。通報を受けた委員会は、差別撤廃条約という国際的基準に照らして違反しているかどうかを審査し、締約国に意見や勧告を行います。選択議定書は、2000年12月に国際的な効力を発生し、2004年2月3日現在の締約国数は60カ国で、日本は未批准です。

この条約の効力が十分発揮されるためには、この条約の歴史や意味を知り、私たち一人ひとりが自覚を持って行動していくことが大切なのではないでしょうか？

フレンテみえのホームページ「参画ゼミ」でも「女子差別撤廃条約について」を掲載していますので、是非ご覧ください。

ホームページアドレス <http://www3.center-mie.or.jp/center/woman/>

5. 28-10. 22

男性講座・専門コース「対人援助のトレーニング」

講師に「日本家族再生センター」所長の味沢道明さんをお招きしました。夫婦関係の悩み、職場・仕事の人間関係など、誰にも相談できずに苦悩する男性たちと気持ちを共有し、地域で活動するためのノウハウを学習しました。相談内容によくみられる事例をテーマに取り上げ、ロールプレイを交えながら行いました。



9. 10-12. 10

フレンテみえエンパワーメント・スクール「CR グループ運営コース～体験で学ぶ・ファシリテート～」

加藤伊都子さん(フェミニストカウンセリング堺フェミニストカウンセラー)のご指導のもと、全8回行いました。実際のCRファシリテート体験を通して具体的なノウハウを学習し、フォーラムでは受講生によるワークショップを開催しました。

10. 1-12. 17

フレンテみえエンパワーメント・スクール「女性のライフサイクル研究コース～わたしの問題を読み解くために～」

母との関係、結婚、出産、子育て、仕事、介護など人生に起こる様々な課題を、各専門講師と一緒に考え、女性に起きている「問題」やジレンマを解き明かすヒントを探りました。有料講座に関わらず、毎回たくさんの方のご参加をいただき、第8回まで終了しました。

◆第9回講座受講生募集中!

- 日時: 1/14(土) 10:30~12:30
- テーマ: 「わたしらしくこの地で暮らす」
- 講師: フレンテみえ所長 鈴木雅子
- 対象: 女性 ●受講料: 無料
- 募集人数: 先着70名(定員になり次第締切)
- 託児: 500円(1歳6ヶ月~未就学児)。
託児申込は12/27締切。
- 申込み: フレンテみえ窓口または電話
Tel 059-233-1131まで。

10. 9

共催事業「第3回三重映画フェスティバル」

三重映画フェスティバル実行委員会と共催で、「成瀬巳喜男監督生誕100年記念上映会」を開催しました。映画「晩菊」に関連し、「映画にみる作家林芙美子が描く女性たち」をテーマにパネル展を実施しました。また、横山智佐子さんを迎えてのゲストトーク、情報コーナーで一時帰国記者会見(10/8)を行いました。



10. 16, 11. 6

平成17年度「三重の女性史を作ろう」公開講座「三重県の近現代史と女性」

講師、三重大学人文学部教授の西川洋さんに多様な地域性をもつ三重県の明治・大正・昭和にわたる人々のあゆみや女性史関連資料の所在と探し方について講義いただきました。また、11/19のフォーラムでは三重の女性史作成活動者によるワークショップを行いました。



11. 26, 27

日本まんなか共和国男女共同参画フォーラム～2005滋賀～&「G-NETしが」フェスタ

研修事業として27名が2つの事業に参加し、4県の交流を通じて今後三重県に活かすべきものを得ることができました。



12. 2

共催事業「家庭教育フォーラム」

教育委員会事務局生涯学習室と共催で開催しました。エントランスでは子育てに関するパネル展を実施しました。



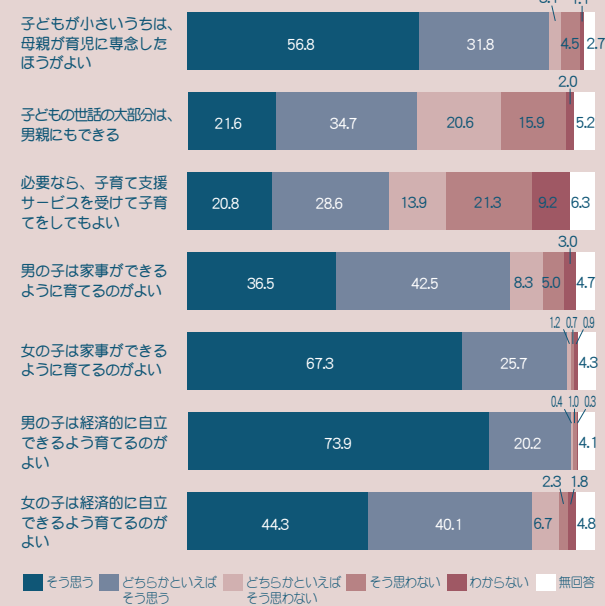
18. 2. 18

平成17年度フレンテみえ登録団体の集い「マイカップの集い」

アンケートにより登録団体のみならず、皆さまのご意見を取り入れ、担当団体による運営で開催します。お茶を飲みながら、気楽に登録団体同士の交流を深めます。

- 場所: フレンテみえ 1階 多目的ホール
- 参加費: 200円
- 託児: 500円(1才6ヶ月~未就学児)。
託児申込は2/4締切。
- 申込み: フレンテみえ
Tel: 059-233-1130まで。

「子育てについて」



三重県「男女共同参画に関する県民意識調査と生活基礎調査結果概要」(平成16年3月)より抜粋

子育てについて、『家事ができるように育てるのがよい』、『経済的に自立できるように育てるのがよい』の返答に子どもの性によって差がみられました。

このことから、親世代において性別役割分担の意識がまだ強く残っていることがうかがえます。

情報誌「Frente」についておたずねします。

1. どれくらいの頻度で読みますか?

- 初めて読む 時々読む 毎月読む

2. この号を、どこで手に入れましたか?

- 三重県総合文化センター(フレンテみえ等) 県庁・県民局・役場
 図書館 病院 音楽・演劇ホール
 個人登録 団体登録 男女共同参画推進委員
 その他 ()

3. 内容はどうでしたか?

- 満足 ほぼ満足 やや不満 不満

4. 良かったものは何ですか? (複数可)

- 表紙デザイン 巻頭エッセイ Report チャレンジ
 市町村からこんにちは ひとくち情報 レビュー・プレビュー
 プチグラフ 地域イベント情報 Book&Video
 読者のみなさまから

5. 巻頭エッセイとプチグラフをご覧いただけましたか? 子育てに関するご意見・感想をお寄せください。

6. 情報誌で取り上げて欲しいテーマをお寄せください。

フレンテみえに新しいラインナップが登場です!!

出張フレンテ 開始します!

講演会や市町村のイベントにフレンテが出張します。講義による学習だけでなく、啓発パネルや図書も紹介し、ますますグレードアップした内容で学習の場を提供していきます。まずはお問い合わせください!



日時

ご相談に応じます。

場所

三重県内

申込み

フレンテみえまで
(Tel 059-233-1130)
平成18年2月まで
随時受付中!

ホームページの“メール”からも
お問い合わせいただけます。

お申込みをお待ちしています!

<http://www3.center-mie.or.jp/center/woman/>

読者のみなさまから

～情報誌 Fren-te vol.21 アンケート ミニ調査結果～

2005年6月に発行の情報誌 Fren-te vol.21 では読者のみなさまに巻頭エッセイとプチグラフをご覧の上、仕事・家庭・余暇のバランスについてご意見・感想をお寄せいただき、ありがとうございました。そのなかのいくつかをご紹介します。

「以前と比べ共働き世帯が増え、男女共に意識し、家事等の分担ができてくつあると思うが、グラフを見る限りまだ働く女性の負担は大きく改善が必要だ」、「エッセイでは男性の仕事のきつさを知り、グラフでは有職主婦が余暇活動を削ってその分家事・育児に時間を割いている現状を見て考えさせられた」といったような、「仕事第一主義」「性別役割分担意識」など企業や地域での概念を変えていくことがワーク・ライフ・バランスを整えていくことの礎であるとの感想が多々ありました。

そのほかにも、「エッセイを読んでこれからの将来設計について考えさせられた」「専業主婦の余暇活動の時間が多く、良いように見える反面、社会とのつながりのなさに寂しい思いをした」など、ご自身の状況と照らし合わせたご感想をいただいています。

男性も女性も地域や家庭での役割を分かち合い、参画していただけるように、フレンテみえではこれからもみなさまと一緒にこのことについて考えていく機会を提供していきたいと考えてます。

みなさまからのご意見は今回の情報誌 Fren-te vol.23 のアンケートでもミニ調査として実施します。たくさんのご意見・感想をお待ちしております。どうぞお気軽にお寄せください。

Book & Video



男女共同参画フォーラム
(11/19開催)シンポジスト
阿部正浩さんの著書です!

図書
『日本経済の環境変化と労働市場』
阿部正浩/著
東洋経済新報社 2005年9月

「いま労働市場に何が起きているのか これからの雇用政策は何をすべきか」解明する一冊。



図書
『シリーズ(女性と心理)第3巻 女性のからだと心理』
河野貴代美/著
新水社 1999年1月

「女性の『心理的問題』を取り扱う」とされているカウンセリングの領域において語られる「身体」の問題を取り上げ、女性の身体性、女性にとって身体の持つ意味について考える。

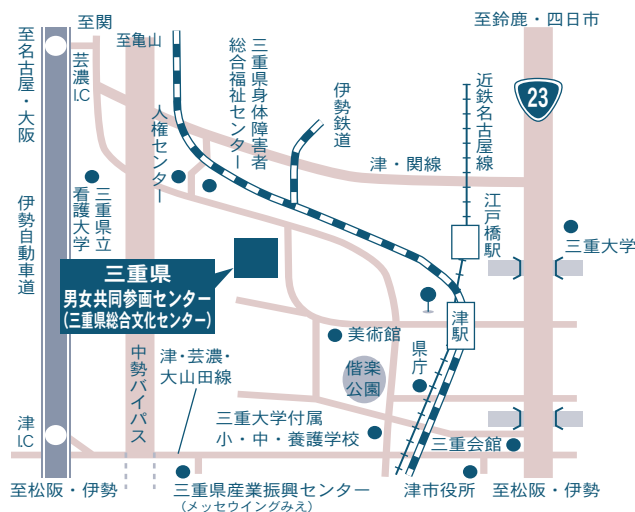


図書
『良妻賢母という規範』
小山静子/著
勁草書房 1991年10月

国民国家や近代家族の成立と不可分な規範として、良妻賢母思想を捉え直す。認識枠組を一新する女性史研究の威力がわかる本。

情報コーナーで紹介しています。

三重県男女共同参画センター までのご案内



休館日 毎週月曜日
年末年始 (12月29日から1月3日まで)
交通 ■バス/津駅西口1番のりばから約5分
■徒歩/津駅西口から約25分
■自家用車/伊勢自動車道芸濃インターから約15分、津インターから約10分
※駐車場は1400台(無料)。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

MIE CENTER FOR THE ARTS
三重県総合文化センター
三重県男女共同参画センター フレンテみえ
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 1234 番地
TEL : 059-233-1130 FAX : 059-233-1135
URL <http://www3.center-mie.or.jp/center/woman/>
E-mail : frente@center-mie.or.jp

これらのイベントにはフレンテが出張します!!
“出張フレンテ”の詳細はアンケートハガキ上部をご覧ください。

地域イベント情報

「ジェフリーふえすた」

映画上映と講師、山田昌弘さんによる基調講演「21世紀家族の姿と男女共同参画」などを開催します。

- 日程：平成18年2月25日(土)、26日(日)
- 場所：鈴鹿市男女共同参画センター ジェフリーすずか
- 問合先：ジェフリーふえすた実行委員会(ジェフリーすずか内) Tel : 0593-81-3113

「つとよっかいち2006」

平成18年3月上旬に四日市市で開催します。詳細についてはまもなくホームページなどで紹介します。

- 場所：四日市市女性センター 本町プラザ
- 問合先：四日市市女性センター
Tel : 0593-54-8331

イベントの詳細はフレンテみえホームページ「県内イベント検索」で検索いただけます。随時情報を更新し、ホットな情報提供を目指していきます。これからもフレンテみえの「県内イベント検索」をどうぞご利用ください!

ホームページアドレス <http://www3.center-mie.or.jp/center/woman/>

切り取り線

郵便はがき

料金受取人払

津中央局承認

1197

差し出し有効期限
平成19年12月19日
まで(切手不要)

514-8790

三重県津市一身田上津部田 1234

三重県総合文化センター
三重県男女共同参画センター 行



切り取り線

市町村名

性別

男 ・ 女

年齢

歳代

フレンテみえ登録団体の方は必ず団体ID・団体名をお願いします

ID

団体名

Frente